

# 効果倍増 わたしの教材活用術

## 「らくらくノート」で 『ホップ・ステップ・ジャンプ』 (計算ドリル編)

岡山市立第一藤田小学校教諭 安原 暁美

### 1 なぜ、らくらくノート

『みんなで跳んだ』は、私の中では感慨深い話です。運動会で長さ20mほどの縄をクラス全員が跳ぶ大縄跳びの種目でのことです。どうしても跳べない生徒がいるわけです。でも、彼は跳びたいのです。クラスの中に様々な葛藤が起こります。苦勞して苦勞して、最後にはみんなで跳ぶことができます。回数は少ないけれど、何事にもかえがたい達成感を子どもたちは得るわけです。

『みんな跳びながら泣いていました。』そういう一文がありました。達成感は、まさに宝です。子どもたちの心の財産と言えるでしょう。これからの時代を「生きていく」、いえ、

「生き抜いていく力」になることでしょう。こういう積み重ねは、自分の心をコントロールする力にもなるように思います。ですから、こういう「やれた」「できた」と言う場面を、私たち教師は意図的につくる必要があると感じています。しかも、学習の中では案外簡単に設定できるものだと思うのです。


その一つが、「らくらくノート」ではないでしょうか。私は、「らくらくノート」を見たとき

① 今日するところ

② ノートに書く場所

③ ノートへの書き方

がわかり「できそうだ」と感じながら家庭学習をしている子どもの姿が目につきました。




**ポイント**

▼計算のノートづくり▼

- 下じきを使う。
- 勉強をした日をかこう。
- 数字がマスからはみ出さないように、ていねいにかこう。
- 計算と計算の間は、あけておこう。
- 筆算の線は、じょうぎを使ってきちんとひこう。
- とちゅうの計算ものこそう。
- 答えがまちがっていても、消しゴムで消さない。

ていねいにかくだけで、計算まちがいがしにくくなるよ。

おのページの「らくらくノート」の使い方をよく見てね。



**らくらくノートの使い方**

まず、なぞって計算しよう。

ドリルのページだよ。

勉強した日をかこう。

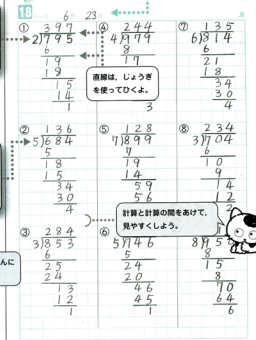
① 今日するところ

2) 7.95

同じように計算しよう。

②

番号をよく見て、じゅんに書えていこう。



計算と計算の間をあけて、残すようにしよう。

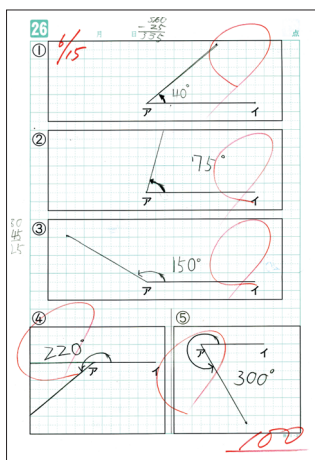
○ドリルの問題は、全部ノートでできるよ。

ノートの中で、**が**しゅべつしていることも、**が**注視してね。

## 2 学習の中で使う(その1)

「らくらくノート」を学習の中で使うこともあります。家庭学習は、できるだけ抵抗なく「できそうだ」という思いで取り組ませたいものです。子どもたちがつまずきそうなところは、補充問題として「らくらくノート」に直接することもあります。

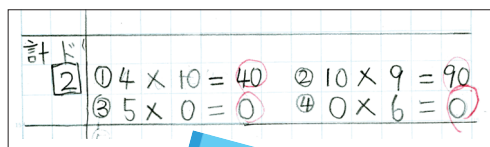
たとえば、4年生の分度器で角度を測る学習の場合です。ノートには、図が描いてあり何をすればいいのかが一目瞭然です。家庭学習には、そこを印刷して出しました。同じ問題を繰り返してすることは定着への第一歩だと考えています。



## 3 学習の中で使う(その2)

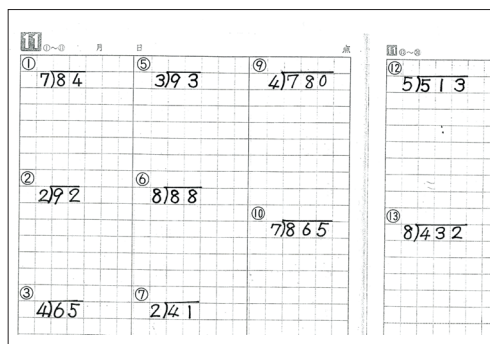
「らくらくノート」を直接使うわけではありませんが、習熟度に合わせて「まとめ」ができれば、計算ドリルを算数ノートにするなどしています。家庭学習としてするときには、2度目になるので意欲的に取り組みます。

また、学年の実態に合わせて、計算ノート(パワーアップノート)にしています。



## 4 朝学習で使うことも

家庭学習で間違いが多いときには、問題を記入して「らくらくノート」を印刷し、朝学習(基礎学力の時間)のプリントにすることもあります。何度もすることで、習得できたのでしょうか。次の学習場面で「前にした筆算の計算ににている。」「あの考え方が使えるそう。」「と数学的な考え方をすることができました。



## 5 夏休みの課題として

今年度は、3年生から6年生までの少人数指導を担当しているのですが、夏休みの課題の一つに「らくらくノート」1冊を出しました。負担になってやる気をなくすのではないだろうかと心配していましたが、何と、子どもたち全員ができてうれしくなりました。

お家の方の励ましの言葉も添えられているものもありました。

The image shows two pages of handwritten student work from a notebook titled 'らくらくノート'. The work is organized into sections labeled 36 and 37. Section 36 contains 10 simple addition and subtraction problems, such as 0.9 + 0.3 = 1.2 and 2.4 - 0.3 = 2.1. Section 37 contains 20 similar problems, including 0.2 + 0.1 = 0.3 and 1.8 + 0.4 = 2.2. The solutions are written in blue ink, and the problems are numbered 1 through 20. There are some red markings and a small drawing of a flower in the middle of section 36. The bottom part of the image shows more complex fraction problems, such as  $\frac{1}{3} + \frac{4}{7} = \frac{7}{21} + \frac{12}{21} = \frac{19}{21}$  and  $\frac{1}{6} + \frac{9}{10} = \frac{5}{30} + \frac{27}{30} = \frac{32}{30} = \frac{16}{15}$ .

## 子どもの感想

- ・ やりやすいからおもしろい。
- ・ ノートが、やりやすい。
- ・ 書きやすい。
- ・ どこに書くか書いてあるし、計算する場所が広いからやりやすい。

(4年生)

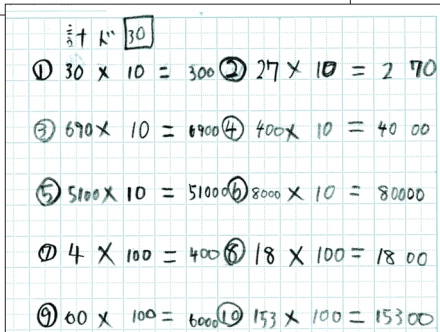
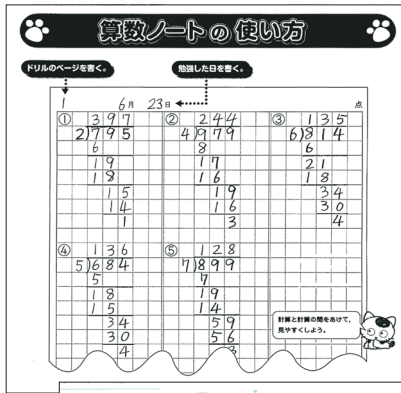
- ・ 番号が書いてあるのでやりやすい。
- ・ マスの大きさがちょうどよくて、字がきれいに書けた。
- ・ 分数の計算スペースがあってよかった。

(6年生)

## 6 「らくらくノート」の最後のページ

算数ノートを忘れたときや、終わったのに買い忘れたときなどに使うようにすることもあります。

なお、ドリルの問題は、上から下に並んでいますので、「らくらくノート」もそうになっていますが、教科書などの復習問題は、左から右へ並んでいますので、書き方を変えることがあります。それで、算数ノートや習熟度別(チャレンジコース)で使う計算ノートの使い方については、「らくらくノート」の最後のページや算数ノートの見開きに、使い方についてプリントしたものを貼って指導しています。「まとめ」を書いてから計算ドリルをする場合、いつも20問できるとは限りません。このような配慮をしています。



## 7 ふり返り

ノートを見ると計算ドリルをしているところや間違ったところなどがよくわかります。そういうところを学習に生かすには適しているように思います。

賞シールは、目に見える達成感でしょう。『心は見えないけれど 心遣いに見える』というところでしょうか。やはり、形として目に見える物は必要のように思います。



## 8 終わりに

教材の開発には、子ども達の心を育てるためのものとして、現代のニーズに合った挑戦をお願いしたいと思っています。

(22年度までの教材を使った実践例です。)

